



“地域のことは地域で考えよう”

2021年1月28日

おきぎん県内景況・速報 2020年12月

◎県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により厳しい状況にあるなか、復調の動きに弱さがみられる。(3カ月連続で判断維持)

■個人消費

スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。

百貨店売上高は前年同月を下回る。

家電卸出荷額は前年同月を上回り、新車販売台数は下回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。

新設住宅着工戸数は前年同月を下回る。

生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を下回り、観光施設入場者数も下回る。

ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで下回る。

ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回る。

■企業倒産

件数、負債総額ともに前年同月を下回る。

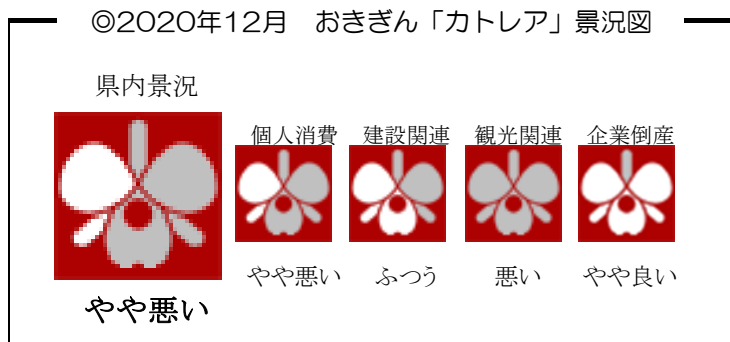
現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2020年12月分)



◎概況：県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、厳しい状況にあるなか復調の動きに弱さがみられる。

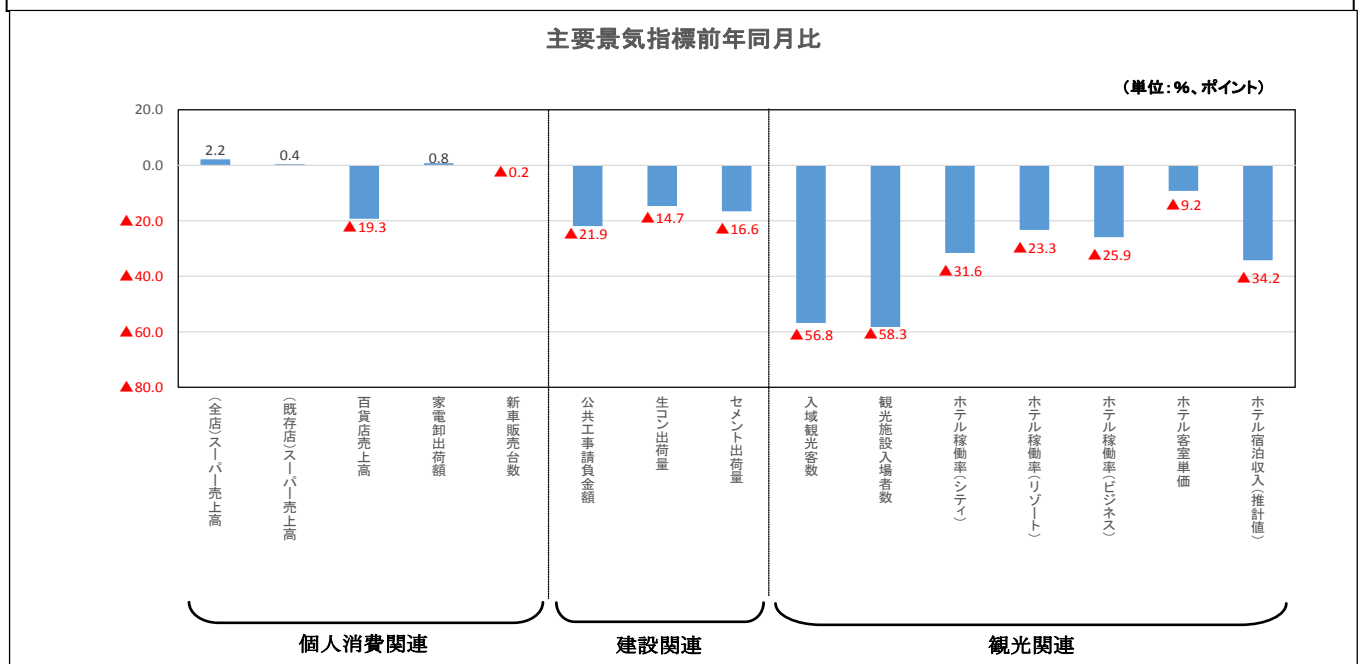
12月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月上回りました。百貨店売上高は、前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月上回りました。新車販売台数は前年同月を下回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は2ヵ月連続で前年同月を下回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を下回りました。

観光関連では、Go to トラベル事業の一時停止の影響等から入域観光客数は12ヵ月連続で前年同月を下回り、観光施設入場者数も前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費は底堅さがみられるなか、建設関連は弱含みが続いており、観光関連は下押しの動きがみられることなどから、「**県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により厳しい状況にあるなか、復調の動きに弱さがみられる。**」と景気判断を据え置きました。

(2020年10月の上方修正から3ヵ月連続で判断維持)



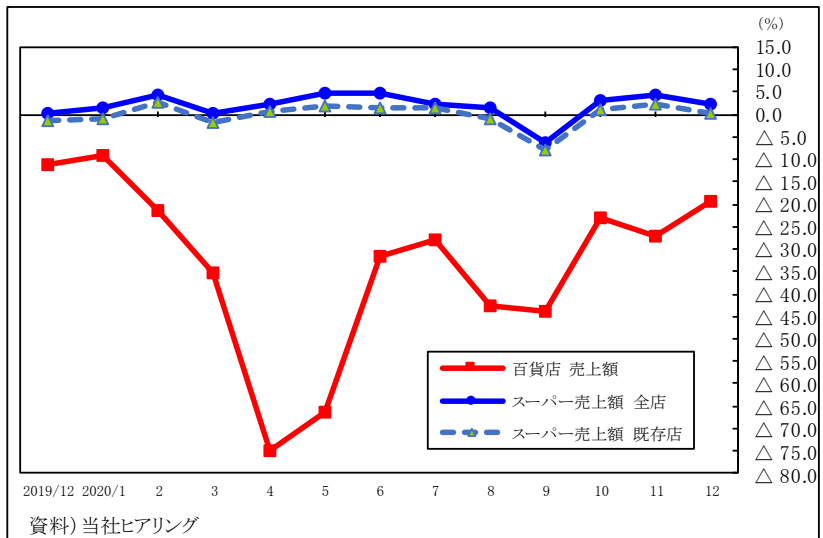


■個人消費： (やや悪い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高は前年同月を下回る。

単位：％

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2019/12	0.3	△ 1.5	△ 11.2
2020/1	1.4	△ 0.8	△ 9.3
2	4.5	2.8	△ 21.3
3	0.4	△ 2.0	△ 35.2
4	2.3	0.7	△ 75.1
5	4.6	1.9	△ 66.2
6	4.9	1.6	△ 31.7
7	2.2	1.3	△ 27.9
8	1.5	△ 0.8	△ 42.7
9	△ 6.1	△ 8.0	△ 44.0
10	3.3	1.1	△ 23.0
11	4.5	2.3	△ 27.0
12	2.2	0.4	△ 19.3



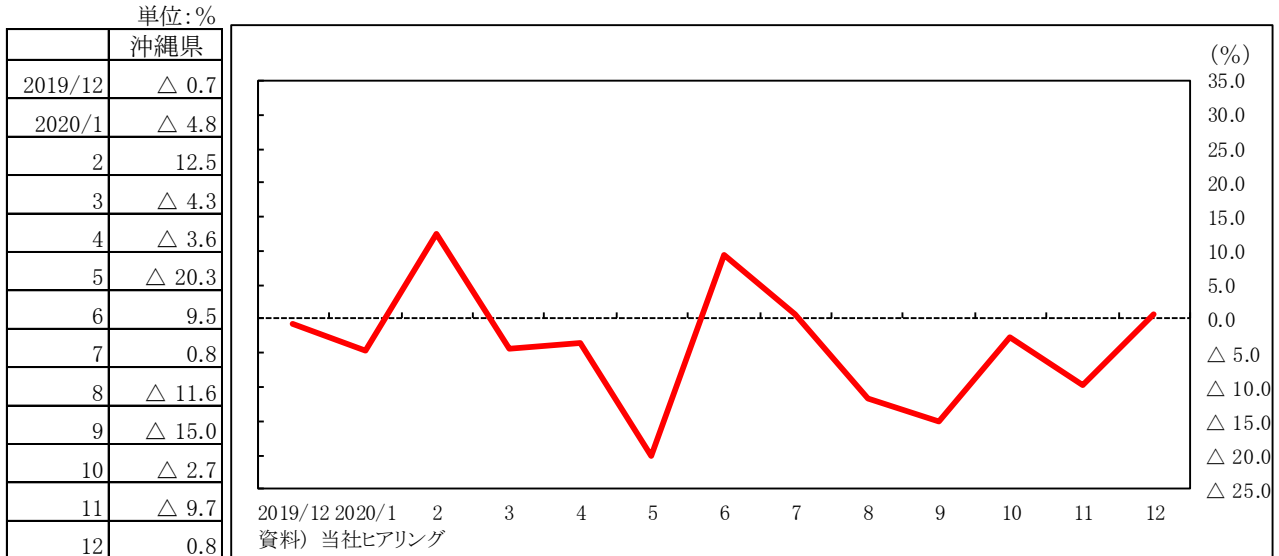
注) 前年同月比

12月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比2.2%増)」は、新規出店効果などにより、「食料品(同2.9%増)」、家電を含む「家庭用品(同4.4%増)」などが伸び、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同0.4%増)」は、食料品や家庭用品が伸び、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、「衣料品(同11.5%減)」は、引き続き外出自粛および不要不急の買い物を控える動きが見られたことなどから、前年同月を下回りました。一方、「家庭用品(同2.0%増)」は、パソコン、空気清浄機、調理機器等の家電や、マスク等の衛生用品が伸び、前年同月を上回りました。ウエイトの高い「食料品(同1.1%増)」は、引き続き巣ごもり需要により、全般的に伸びたことから、前年同月を上回りました。

百貨店売上高は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響拡大による時短営業や、外出自粛などにより来店客数が減少しており、19ヵ月連続で前年同月を下回りました(同19.3%減)。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品(同22.1%減)」は、気温が前年に比べ高く推移したことや、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により不要不急の買い物を控える動きが見られたことなどから、前年同月を下回りました。「食料品(同13.9%減)」は、クリスマスケーキやお節料理といった巣ごもり需要向け商品が伸びたものの、お歳暮の販売が伸びず前年同月を下回りました。化粧品等の「雑貨(同25.8%減)」は、インバウンド需要の大幅に減少により、前年同月を下回りました。

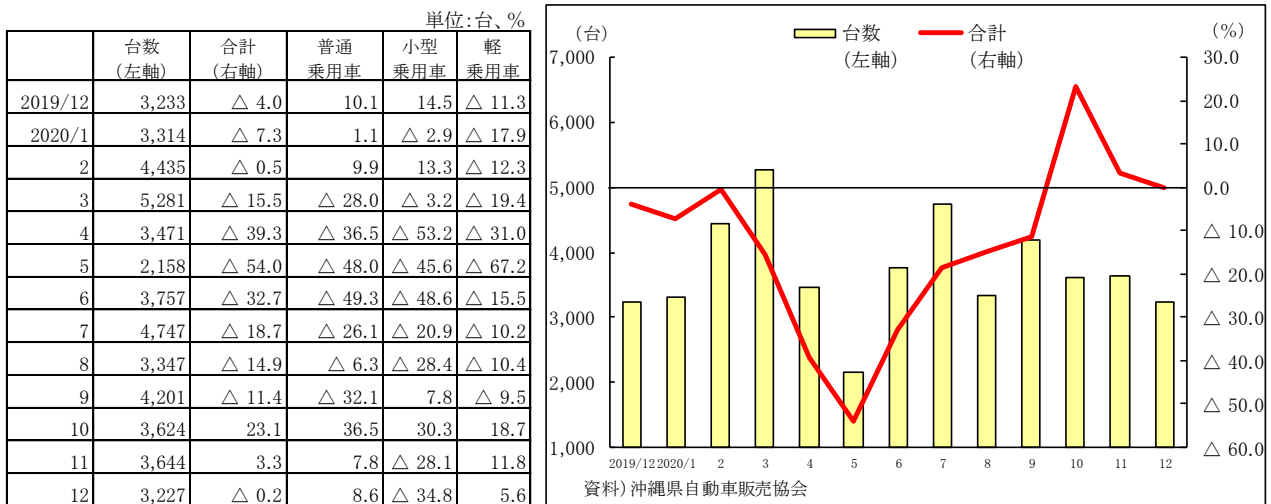
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は5ヵ月ぶりに前年同月を上回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、テレビや洗濯機が伸び、5ヵ月ぶりに前年同月を上回りました(同 0.8%増)。品目別では、「エアコン(同 18.1%減)」、「VTR(同 24.7%減)」は、前年同月を下回りました。一方、「テレビ(同 13.8%増)」は高価格帯商品が伸び、前年同月を上回りました。「洗濯機(同 27.2%増)」は、買い替え需要の増加などから前年同月を上回りました。「冷蔵庫(同 0.0%)」は前年並みとなりました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、3ヵ月ぶりに前年同月を下回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

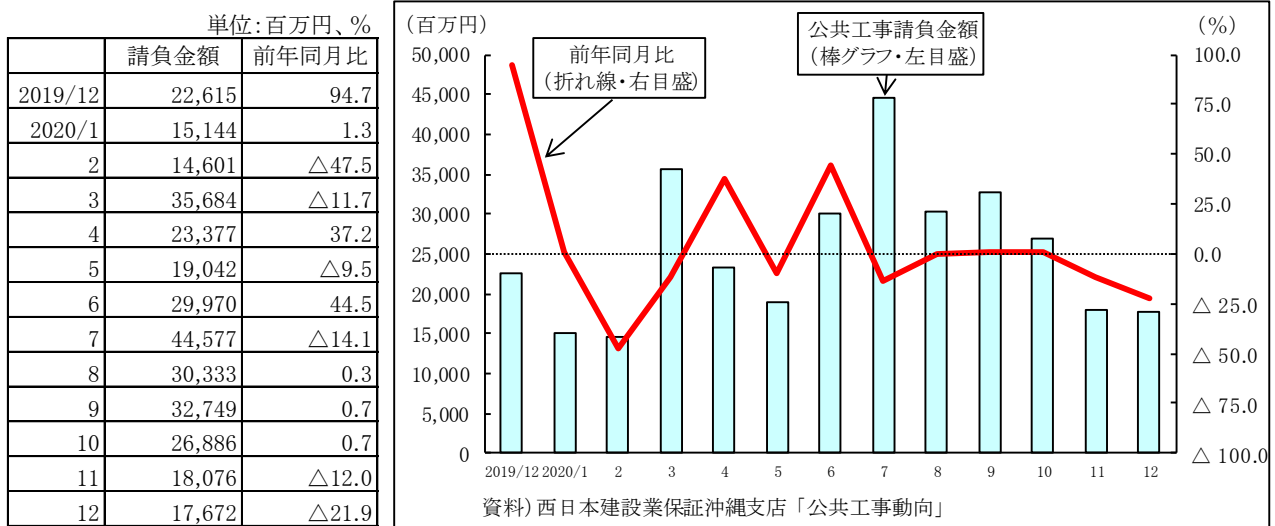
新車販売台数は、全体で3,227台(同 0.2%減)となり、3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。車種別では、「普通乗用車(同 8.6%増)」、「軽乗用車(同 5.6%増)」は、レンタカー需要は減少したものの、自家用車需要が増加し、前年同月を上回りました。一方、「小型乗用車(同 34.8%減)」は、自家用車需要は増加したものの、レンタカー需要が大きく減少し前年同月を下回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

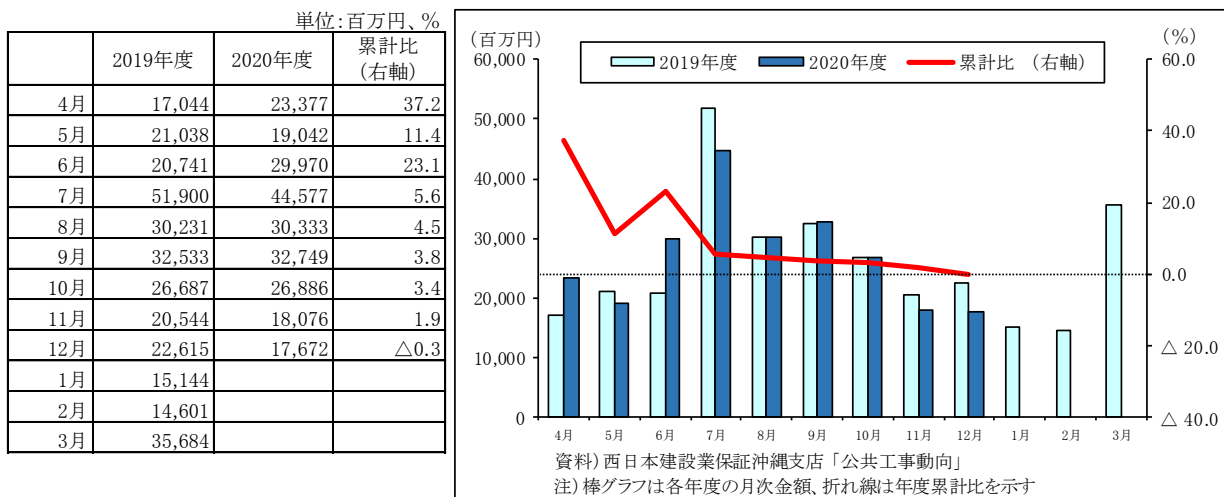


■建設関連： (ふつう)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を下回る。



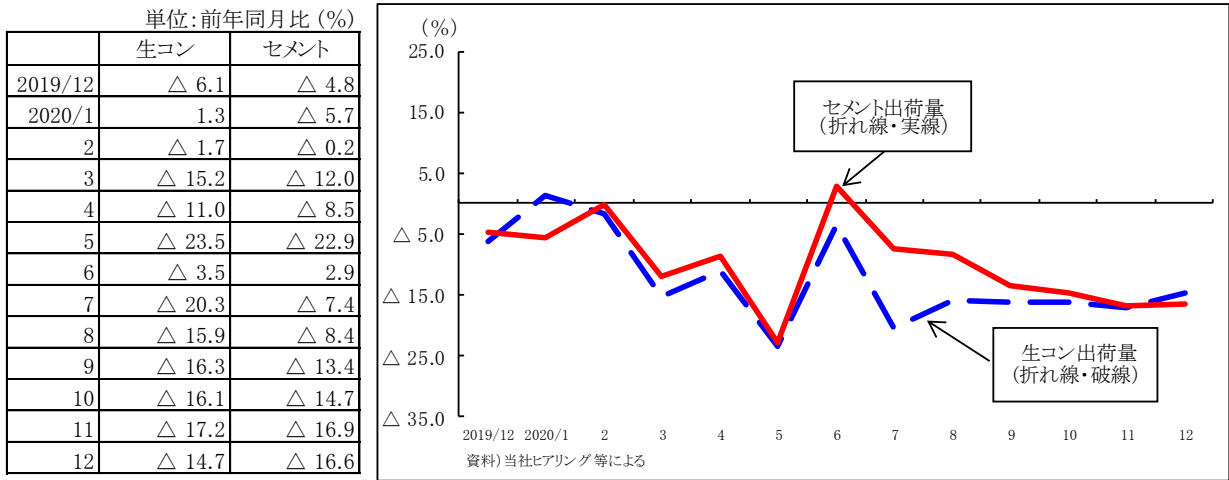
【参考】公共工事（年度累計）・・・公共工事請負金額は前年同期を下回る。



12月の公共工事請負金額は、前年同月比21.9%減の176億7,200万円となりました(2ヵ月連続減)。今年度累計値では、0.3%減となっています。

発注者別でみると、「その他の公共的団体(同84.4%減)」や「国(同16.9%減)」、「独立行政法人等(同32.8%減)」は前年同月を下回りました。一方、「沖縄県(同165.8%増)」や「市町村(同10.5%増)」は前年同月を上回りました。

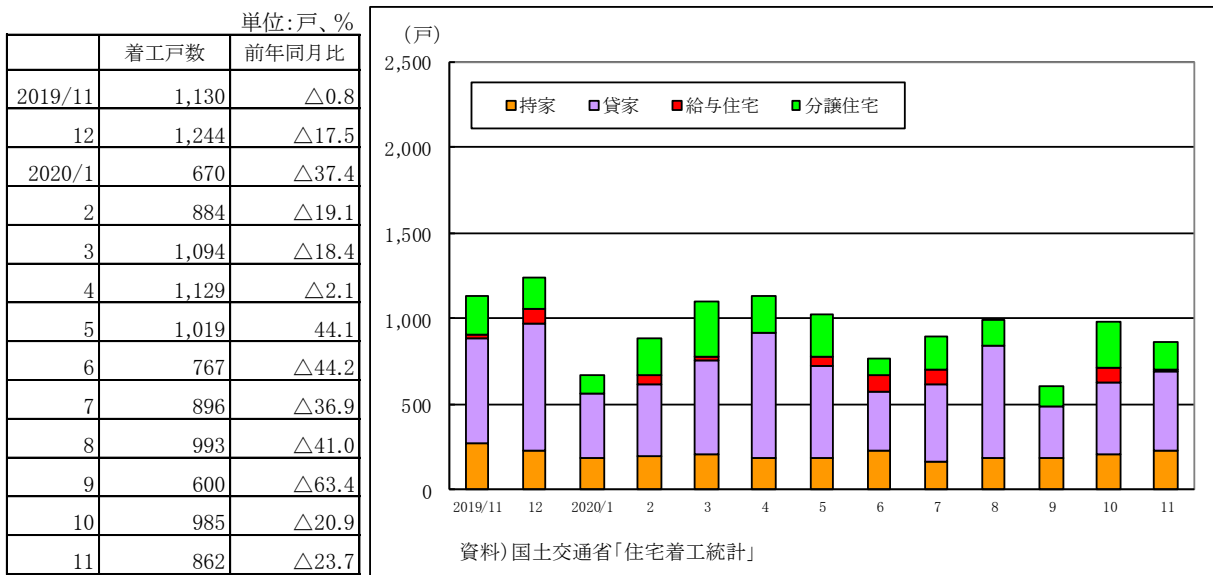
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を下回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、正確にて修正される場合がある

建設資材関連では、生コンの出荷量は14.7%減と11ヵ月連続で前年同月を下回りました。内訳をみると、公共工事向けは、中南部地区における学校関連等への出荷が増加したことなどから前年同月より11.3%上回りましたが、民間工事向けは、中南部地区における住宅関連等への出荷が減少したことなどから前年同月より26.1%下回りました。セメント出荷量は16.6%減と6ヵ月連続で前年同月を下回りました。

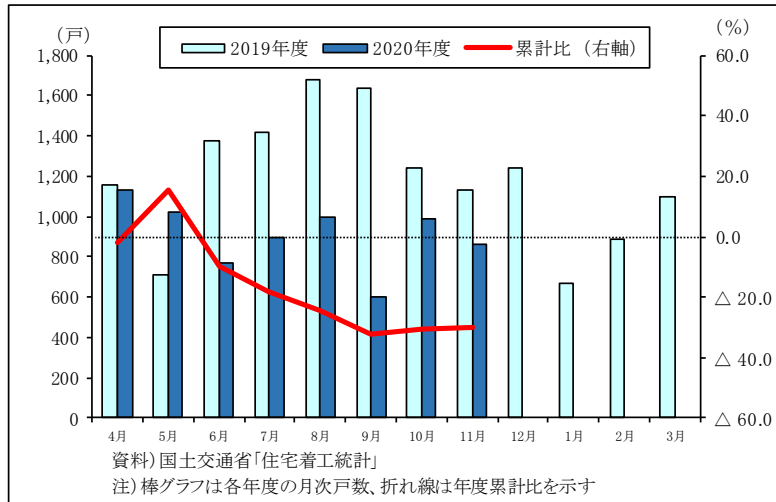
③【参考】住宅投資(11月)・・・着工戸数は前年同月を下回る。



11月の新設住宅着工戸数は、全体で前年同月比23.7%減の862戸となり、6ヵ月連続で前年同月を下回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家(同23.1%減)」のほか、「分譲住宅(同27.0%減)」、「持家(同16.0%減)」、「給与住宅(同95.8%減)」のすべての項目で前年同月を下回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を下回る。

	2019年度	2020年度	累計比 (右軸)
	単位:戸、%		
4月	1,153	1,129	△2.1
5月	707	1,019	15.5
6月	1,374	767	△9.9
7月	1,419	896	△18.1
8月	1,683	993	△24.2
9月	1,640	600	△32.2
10月	1,245	985	△30.7
11月	1,130	862	△29.9
12月	1,244		
1月	670		
2月	884		
3月	1,094		



今年度累計値では、29.9%減となっています。



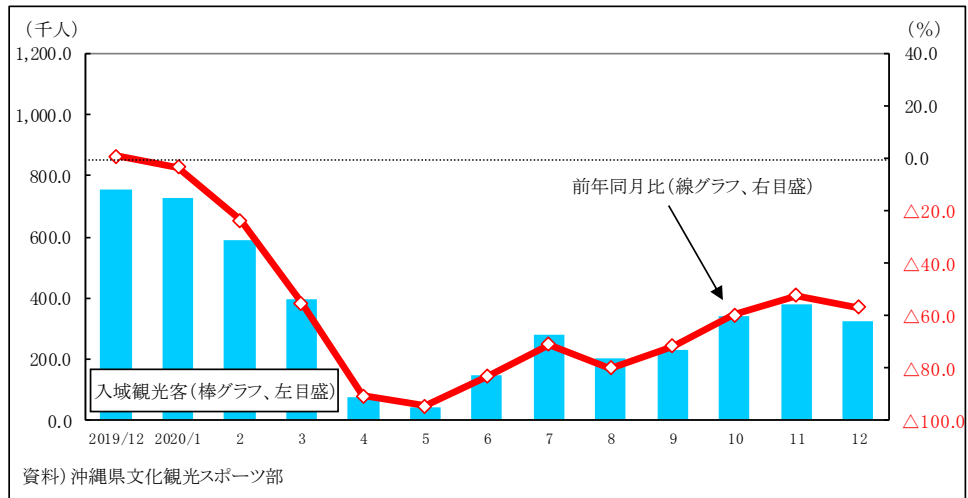
■観光関連： (悪い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・12ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位:千人、%

	入域観光客	前年同月比
2019/12	755.1	1.0
2020/1	727.8	△ 3.4
2	590.9	△ 23.5
3	396.3	△ 55.2
4	77.3	△ 90.9
5	44.0	△ 94.7
6	144.1	△ 83.4
7	277.3	△ 71.2
8	202.8	△ 80.1
9	227.6	△ 71.9
10	341.2	△ 59.9
11	381.1	△ 52.3
12	326.2	△ 56.8

※外国客は乗務員等を含む

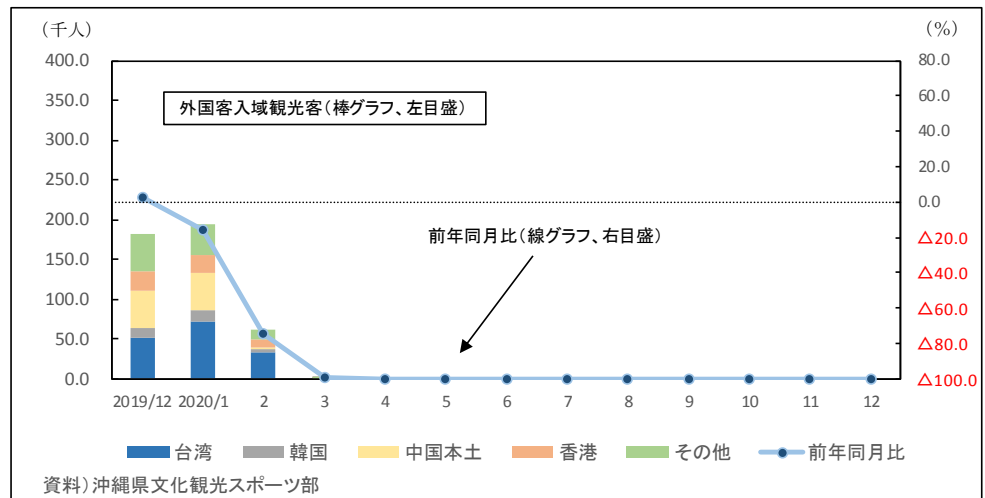


外国客 入域観光客数・・・12ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位:千人、%

	入域観光客	前年同月比
2019/12	182.4	2.9
2020/1	193.5	△ 15.8
2	61.0	△ 74.6
3	2.4	△ 98.9
4	0.0	△ 100.0
5	0.0	△ 100.0
6	0.0	△ 100.0
7	0.0	△ 100.0
8	0.0	△ 100.0
9	0.0	△ 100.0
10	0.0	△ 100.0
11	0.0	△ 100.0
12	0.0	△ 100.0

※外国客は乗務員等を含む



12月の入域観光客数は、428,900人少ない326,200人(前年同月比56.8%減)となり、12ヵ月連続で前年同月を下回りました。

内訳をみると、「国内客(同43.0%減)」は、326,200人と11ヵ月連続で前年同月を下回りました。

12月は、県外空港と那覇空港とを結ぶ路線における減便や全国的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴う旅行を控える動きの影響などから、前年同月を大きく下回りました。

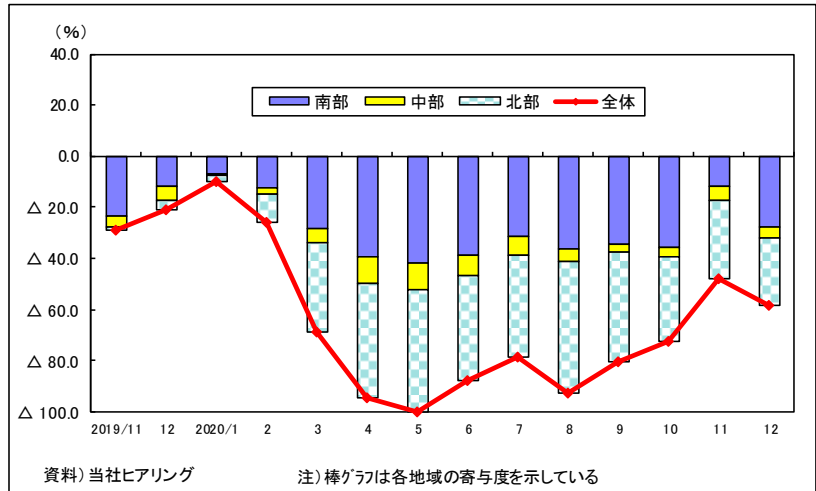
他方、「外国客(同100.0%減)」は、0人となり12ヵ月連続で前年同月を下回りました。台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、皆減となりました。

「台湾(同100.0%減)」「韓国(同100.0%減)」「中国本土(同100.0%減)」「香港(同100.0%減)」

② 観光施設入場者数・・・17ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2019/12	△ 16.7	△ 27.7	△ 6.8	△ 8.8
2020/1	△ 10.1	△ 16.4	△ 6.7	△ 5.3
2	△ 25.7	△ 31.6	△ 23.7	△ 21.3
3	△ 68.5	△ 68.8	△ 52.9	△ 71.8
4	△ 94.7	△ 95.6	△ 94.7	△ 93.9
5	△ 99.9	△ 100.0	△ 99.6	△ 99.9
6	△ 87.7	△ 92.4	△ 92.8	△ 82.9
7	△ 78.5	△ 83.9	△ 83.4	△ 74.0
8	△ 92.6	△ 92.3	△ 92.6	△ 92.8
9	△ 81.2	△ 86.8	△ 73.5	△ 76.4
10	△ 73.6	△ 81.8	△ 58.9	△ 65.9
11	△ 51.2	△ 38.1	△ 55.1	△ 51.7
12	△ 58.3	△ 70.0	△ 48.4	△ 51.2



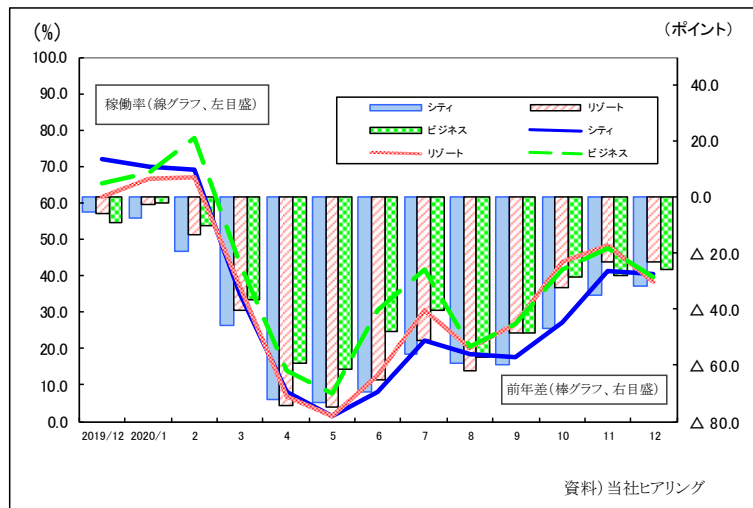
※調査対象施設数＝南部6、中部5、北部4施設
 ※2019年3月より、北部の対象施設数に変更(5⇒4)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より58.3%減少(17ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同70.0%減と17ヵ月連続、中部は同48.4%減と13ヵ月連続、北部は同51.2%減と17ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

単位: %、ポイント

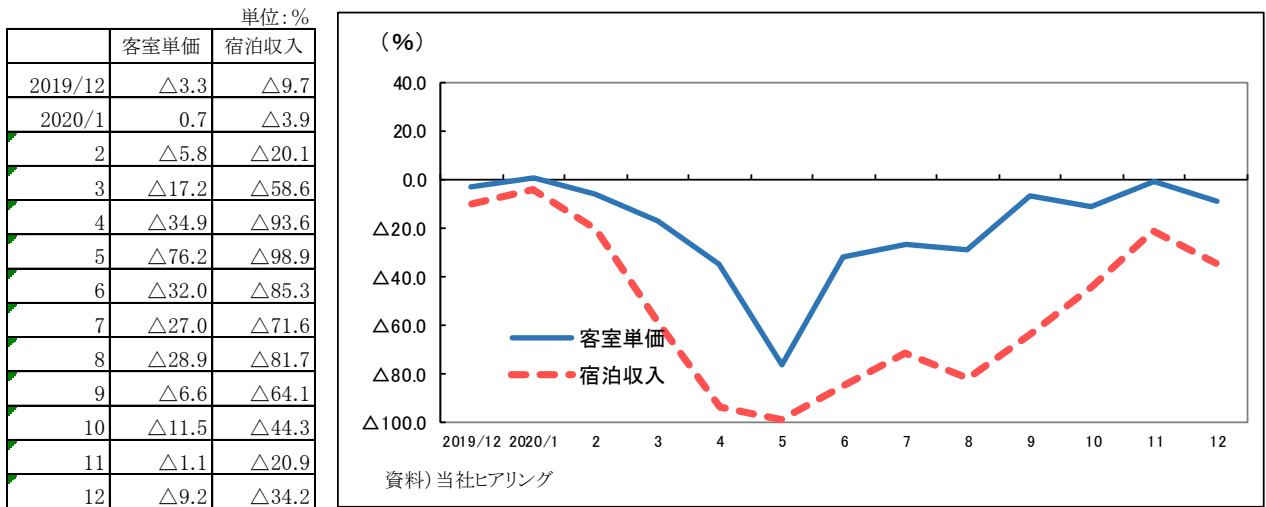
	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2019/12	72.1	61.8	65.4	△ 5.2	△ 5.9	△ 8.8
2020/1	70.1	66.8	68.1	△ 7.6	△ 2.4	△ 1.9
2	69.1	67.1	77.6	△ 19.1	△ 13.2	△ 10.4
3	34.9	37.3	43.2	△ 46.0	△ 40.1	△ 36.7
4	8.0	6.8	13.9	△ 72.2	△ 74.6	△ 59.5
5	1.3	1.4	7.6	△ 73.1	△ 74.8	△ 61.2
6	8.2	12.8	30.4	△ 69.6	△ 64.9	△ 48.1
7	22.4	30.5	41.7	△ 55.8	△ 51.4	△ 40.1
8	18.6	20.1	20.7	△ 59.5	△ 61.8	△ 56.9
9	17.6	26.6	26.7	△ 59.9	△ 48.4	△ 48.6
10	27.0	43.8	41.6	△ 46.6	△ 32.5	△ 28.4
11	41.2	48.4	47.4	△ 35.1	△ 23.0	△ 28.2
12	40.5	38.5	39.5	△ 31.6	△ 23.3	△ 25.9



注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス4ホテル
 注) 2019年11月より、ビジネスホテル対象施設数に変更(6⇒4)となったことから、2018年11月以降の数値を遡って改定した。
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。
 ※新型コロナウイルス感染症の影響等をふまえて集計している。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが40.5%と31.6ポイント減少(18ヵ月連続)、リゾートホテル38.5%と23.3ポイント減少(19ヵ月連続)、ビジネスホテルが39.5%と25.9ポイント減少(17ヵ月連続)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入も下回る。



※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 9.2%減と前年同月を下回りました。**宿泊収入**も同 34.2%減と前年同月を下回りました。

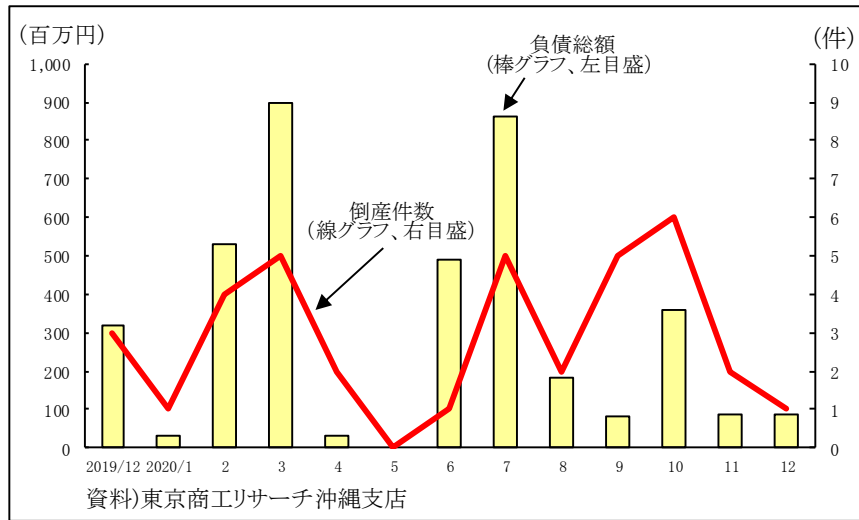


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を下回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2019/12	318	3
2020/1	30	1
2	530	4
3	897	5
4	30	2
5	0	0
6	490	1
7	862	5
8	182	2
9	84	5
10	360	6
11	87	2
12	88	1



注) 負債総額1,000万円以上を集計対象

12月の**企業倒産件数**は、1件(大口倒産はなし)となり、前年同月より66.7%下回りました。

負債総額は8,800万円となり、前年同月より72.3%下回りました。

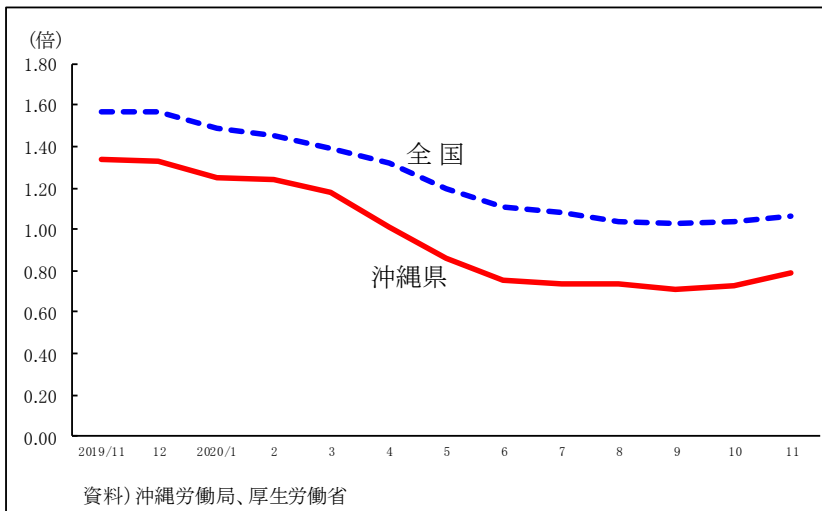


■雇用関連： (やや悪い)

①【参考】有効求人倍率(11月)・・・沖縄、全国はともに前月より上昇。

単位:倍

	沖縄県	全国
2019/11	1.34	1.57
12	1.33	1.57
2020/1	1.25	1.49
2	1.24	1.45
3	1.18	1.39
4	1.01	1.32
5	0.86	1.20
6	0.75	1.11
7	0.74	1.08
8	0.74	1.04
9	0.71	1.03
10	0.73	1.04
11	0.79	1.06



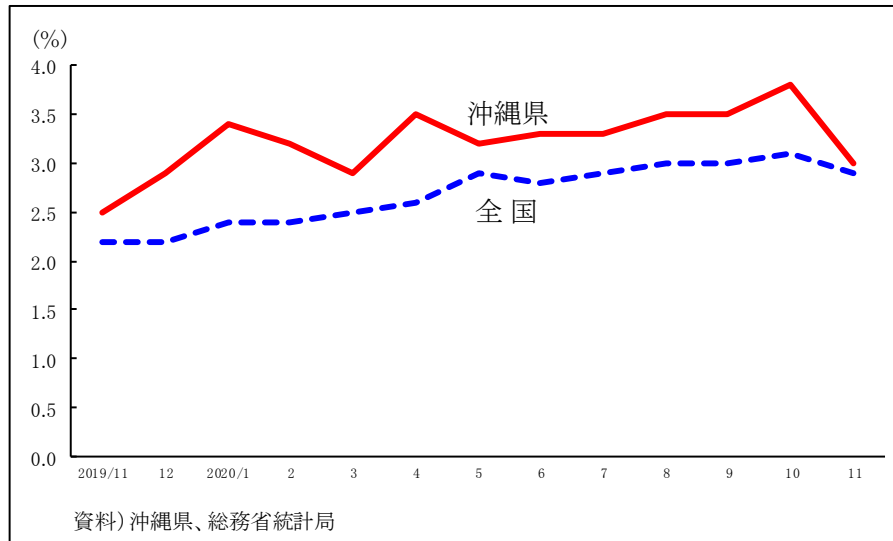
注) 季節調整済

注) 沖縄県の数値は県内を就業地とする「就業地別」求人数を用いて算出

11月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)が前月比7.9%増の23,923人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比0.4%増の30,429人となり、**有効求人倍率(季節調整値)**は0.79倍と、前月より0.06ポイント上昇しました。

②【参考】完全失業率（11月）・・・沖縄、全国はともに前月より低下。

単位:%		
	沖縄県	全国
2019/11	2.5	2.2
12	2.9	2.2
2020/1	3.4	2.4
2	3.2	2.4
3	2.9	2.5
4	3.5	2.6
5	3.2	2.9
6	3.3	2.8
7	3.3	2.9
8	3.5	3.0
9	3.5	3.0
10	3.8	3.1
11	3.0	2.9



注) 季節調整済

11月の完全失業率(季節調整値)は、3.0%となり前月より0.8ポイント低下しました。